

私の心にある和歌山

PHAM THI BICH HANG
教育学部 交換留学生 ベトナム



和歌山に来てから、あっという間にもう2か月以上経った。他の留学生たちと同じで、今回初めて家族と離れたら、確かに一人暮らしの生活に不安を感じていた。しかし、和歌山に来たばかりの時、想像していたことと違って驚いた。和歌山は、私の生まれ育ってきた所と似ている。和歌山は賑やかなところではなく、緑いっぱいの山々に囲まれ、ピカピカの日差しがある青空や、木の枝葉

をやさしく吹く風など、言葉で表せない気持ちをもたらしした。とても快適だとも思う。

学年の初めの日に、一番怖かったのは学校へ行く道だった。そんな長い道を行ったことがないから、とても疲れた。蒸し暑い日でも、強い風の日でも、そして大雨の日であっても、毎日その道で学校に通っている。疲れるが、そういうことは自分のチャレンジだと思って、頑張って進んでいく。山の上にある和歌山大学が見える時、幸せな気持ちになるのである。今は、もう慣れたので、それほど怖くない。いつの間にか学校へ行く道は私の友達になった。

その道でも貴重な経験をした。「おはよう」という挨拶である。「おはよう」という言葉は簡単だが、不思議な力があると思う。毎日、自転車で学校に通い、電車が通るのを待っている時、厳しそうな顔をしているお年寄りの駅員を見かける。一日目、厳しそうな顔を見て、怖いので、その駅員を黙って通り過ぎていった。2日目も3日目も同じだった。4日目にその駅員に「おはよう」と言おうと決めてから、そうした。私が「おはよう」と言うと、駅員は笑顔で「おはよう」と挨拶してくれた。それから現在まで、私と駅員は毎回お互いに笑顔で「おはよう」と言っている。このような簡単な言葉でも恥ずかしくて、他の人に話しかけられない私に勇気を与え、話しかけるようにさせました。更に、日本人についての考え方も変わってきた。日本人は誰でも冷たい人だというわけではないと分かった。そのような簡単な言葉も、異国の人と日本人を結びつける紐になってきた。「おはよう」は不思議な力がある言葉には違いない。

ある先生は私に「日本に来てから、思ったことと最も違うのは何ですか」と聞かれた。「ベトナムにいる時、日本人はとても冷たいと聞いたが、日本に来てから、そんなことはないと思った」と答えた。その先生は笑顔で「ハンちゃん、そんなことはなくもないよ。東京とか大阪などの大都市に住んでいる人は忙しすぎて、冷たくなるだろう」とやさしく言った。それを聞いて、私は和歌山に住んで



いるのは最も幸せなことだと思った。もし、和歌山が東京や大阪のように賑やかになっても、それでもまだ人に落ち着いた感じをもたらすところのままなのだろうか。もしも和歌山での生活のスピードが速かったら、みんなは通り過ぎて笑顔で挨拶するとか、自分が少し遅くても、他の人に道を譲るとかの心の余裕もなくなるのかもしれない。今の和歌山は静かで、きれいな自然がある所で、ここの人々はやさしく、親切なのだ。だから、今の和歌山が大好きだと思う。



和歌山で様々な国から来た人たちに会って、一緒に住んで、一緒に楽しく時間を過ごしている。本当に嬉しい。それだけでなく、学校の先生やボランティア組織の皆様に出会えて、皆がいつも私のお世話をしてくれて、励ましてくれている。本当に感謝している。

出典：5月22日WINコンコードのパーティー

和歌山で、家族と一緒に住んでいたような雰囲気を感じている。皆様に、もう一度お礼が言いたい。どうもありがとうございました。あと10ヵ月しかないが、長い時間ではなくても、同じ思い出を作るのに十分だとおもう。皆様、これからもよろしくお願いします。

毎日の生活の一番小さなことから和歌山が好きになっている。和歌山はたくさんの自然があるところだ。ここには、海の香りもあり、花もいっぱいあり、果物もたくさんあるところだ。帰国しても、きれいな和歌山のこともここでの私の「家族」のみんなのことも絶対に忘れない。帰国してから、もし、だれかが「留学して、何をもらったか」と私に聞いたなら、すぐに「一番貴重なことをもらったのは和歌山の人々の人情味だ」と答える。